

秘

昭和二十年六月八日會議議案

| | |
|-----------|---------|
| 昭和二十年六月八日 | 法律第三十八號 |
| 昭和二十年六月五日 | 公報 |

戰時緊急措置法案帝國議會へ提出ノ件 参照添附

極秘

戦時緊急措置法

第一條 大東亞戦争ニ際シ國家ノ危急ヲ克服スル爲緊急ノ必要アルトキハ政府ハ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ左ノ各節ニ掲グル事項ニ関シ緊急ノ措置ヲ講ズル爲必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 軍需生産ノ維持及増強
- 二 食糧其ノ他生活必需品ノ確保
- 三 運輸通信ノ維持及増強
- 四 防衛ノ強化及秩序ノ維持
- 五 税制ノ並正化
- 六 戦災ノ善後措置

其ノ他戦力ノ集中發揮ニ必要ナル事項ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ
第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ依リ爲ス處分又ハ同條ノ規定ニ依リ爲ス處分ニ因リ生シタル損失ヲ補償スルコトヲ得

第三條 第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令若ハ之ニ依リ爲ス處分又ハ同條ノ規定ニ依リ爲ス處分ニ違反シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ十萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ依リ爲ス處分又ハ同條ノ規定ニ依リ爲ス處分ヲ拒ミ、妨ケ又ハ怠慢シタル者ハ三年以下ノ懲役、五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

國家總動員法第三十五條、第四十八條及第四十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條 第一條ノ規定ニ基キテ措置ニシテ重要ナルモノニ付テハ政府ハ勅令ノ旨ニ依リ之ヲ戰時緊急措置委員會ニ報告スベシ

戰時緊急措置委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 本法施行ニ關シ、必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

戰時緊急措置法案提案内閣總理大臣說明要旨

現下ノ非常事態ニ對處シ、國政ノ遂行ニ左遺憾ナキヲ期スルガ爲ニハ、戦力ノ集中發揮ニ必要ナル各種事項ニ關シ、應機ニ措置ヲ迅速果敢ニ講スルノ要切ナルモノアリ。然レドモ、今日各種ノ法制ハ極メテ周密複雑ニシテ、爲ニ戰時下行政ノ機動的ナル運営ヲ庶幾スルニ支障ヲ生ズル虞尠シトセズ。而シテ具體的必要ノ生ジタル都度、法令ノ改正ヲ行ヒ、然ル後措置ヲ講ジ行クハ到底當面ノ必要ヲ満足セシムルコトヲ得

ズ。又、法律ヲ以テ規定スルヲ要スル事項ニ関
シテモ、一々法律ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ
經、然ル後實施シユク暇ナキ場合ヲモ豫想
スルコトヲ得。依テ、此處ニ本法ノ制定ヲ仰
ギ、大東亞戰爭ニ際シ、國家ノ危急ヲ克服ス
ル爲緊急ノ必要アルトキハ、政府ハ他ノ法令
ノ規定ニ拘ラズ、軍需生産ノ維持及增強、食
糧其ノ他生活必需物資ノ確保、運輸通信ノ維
持及增強、防衛ノ強化及秩序ノ維持、稅制ノ
適正化、戰災ノ善後措置等戰力ノ集中發揮ニ
必要ナル諸般ノ事項ニ関シ、應機ノ措置ヲ講ズ

ル爲必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲シ得ルモ
トシ、以テ現下ノ要請ニ應ゼントス。即チ第一條
ノ規定及其ノ施行勅令ノ定ムル所ニ依リ、豫メ非
常應急ノ措置ニ関スル大綱ヲ定メ置キ、現
實具體ノ個々ノ必要ガ生ジタル都度直ニ應機ノ
措置ヲ講シ得ルコトトシ、一方國民ニ對シ自
發的ニ政府ノ措置ニ協力セシムルノ覺悟ヲ固メ
シムルト同時ニ、他方行政官廳ヲシテ之ガ適切
ナル運営ニ充テ用意ヲ爲サシムルニシテ、尤モ
ナリ。尚本法ニ依ル措置ニ因リ生ジタル損
失ニ對シテハ之ヲ補償シ得ルノ途ヲ拓キ、

及者ニ對シ必要ナル罰則ヲ設ク、其ノ措置ノ重要ナルモノニ付テハ之ヲ戰時緊急措置委員會ニ報告スルコトト爲スノ外、必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトト爲サントス。本法制定ノ時ハ政府ハヨク本法ノ趣旨ニ鑑ミ、其ノ活用ニ十全ヲ期スルノ覺悟ナリ。

○國家總動員法

昭和十三年
法律第五十五號

第三十五條 前四條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第四十八條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十一條ノ二乃至第三十四條、第三十六條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第四十三條前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十九條 前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店
又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代
理人、使用人、其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外
ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施
行地ニ住所ヲ有スル人ノ代理人、使用人、其ノ
他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル
行爲ニ付亦同ジ
本法ノ罰則ハ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シ
タル帝國臣民ニモ之ヲ適用ス



衆議院議員選舉法第十條ノ特例ニ關ス
ル法律案帝國議會ヘ提出ノ件外ニ件審
査報告筆記寫

今回御諮詢ノ衆議院議員選舉法第十條ノ特例
ニ關スル法律案帝國議會ヘ提出ノ件、裁判所構
成法戰時特例中改正法律案帝國議會ヘ提出ノ
件及戰時緊急措置法案帝國議會ヘ提出ノ件ニ
付本官等審査委員ヲ命ゼラレ本日委員會ヲ開
キ當局大臣及關係諸官ノ辯明ヲ聽キ以テ之ガ
審査ヲ遂ゲタリ

今本案各件ノ要旨ヲ説明スレバ次ノ如シ

第一、衆議院議員選舉法第十條ノ特例ニ關ス

ル法律案帝國議會ヘ提出ノ件

現行衆議院議員選舉法第十條ノ規定ニ依レ
バ衆議院議員ハ國務大臣、内閣書記官長、法制
局長官、各省政務次官、參與官等特殊ノ官ヲ除
キ官吏ト相兼ヌルコトヲ得ザルモノト爲セ
ルガ大東亞戰爭ノ現段階ニ於テハ廣ク適材
ヲ官界ニ招致シ國政ノ運営ニ其ノ能力ヲ十
分ニ活用セシムルノ要アルニ由リ茲ニ本案

ヲ以テ右ノ規定ニ特例ヲ設ケ大東亞戰爭中
衆議院議員ハ在職ノ儘勅令ヲ以テ指定スル
官吏ト相兼ヌルコトヲ得ルコトヲ定メ此ノ
法律案ヲ今期ノ帝國議會ニ提出セントスル
モノナリ

第二、裁判所構成法戰時特例中改正法律案帝

國議會ヘ提出ノ件

抑々裁判所構成法戰時特例ハ司法事務ノ運
營ヲ戰時態勢下ニ置カンガ爲昭和十七年二
月制定セラレ翌十八年十月戰局ノ新ナル段

階ニ順應セシムベク所要ノ改正ヲ施サレタ
ルガ其ノ後戦局ノ推移ハ著シク急調ヲ辿リ
司法事務ヲ現下ノ緊迫セル事態ニ即應シテ
迅速且機動的ニ運営セシメンガ爲ニハ現行
制度ニ對シ受ニ新ナル改正ヲ加フルノ必要
ヲ見ルニ上レリ仍テ政府ニ於テハ本案ノ裁
判所構成法戰時特例中改正法律案ヲ立案シ
之ヲ今期ノ帝國議會ニ提出セントスルモノ
ニシテ其ノ要旨ヲ説明スレバ左ノ如シ
(一)現行制度ニ依レバ裁判所ノ設立、廢止及管

轄區域並ニ其ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定
ムルコトトセラレタルガ(裁判所構成法)戰局
ノ進展ニ伴ヒ之ヲ急速ニ變更セシムルノ
途ヲ拓キ置クノ要アルヲ以テ本案ハ此等
ノ事項ヲ勅令ニ依リ定ムルコトヲ得ルモ
ノトス(第一條)
(二)現行制度ハ既ニ或程度裁判所間ニ於ケル
判事代理ノ制ヲ設ケタルガ(裁判所構成法)
同第二十五條同第二十五條之ヲ以テハ到底
條ノ二及同第三十六條
最近ノ情勢ニ即應スルノ態勢ヲ樹ツルコ

トヲ得ザルが故ニ本條ニ於テハ之が制度
ヲ擴張シ廣ク裁判事務上必要アリト認ム
ルトキハ控訴院長ハ其ノ管轄区域内ニ於
テ一ノ裁判所ノ判事ニ他ノ裁判所ノ判事
ノ代理ヲ命ズルコトヲ得ルモノトス(第ハ

三) 現行制度ニ依レバ開廷其ノ他裁判所判事
又ハ檢事ノ行フ一定ノ職務ニ付テハ裁判
所書記ヲ立會ハシメ調書ノ作成等ヲ其ノ
職掌ト定メタルが(裁判所構成法第九十一條
同第九十二條民事新

裁判所法第五十四條 近時應召

等ニ因ル書記ノ不足及戰災等ニ因ル其ノ
缺勤ハ裁判事務ノ運行ニ影響ヲ及ボシツ
ツアルヲ以テ本條ハ裁判所書記差支ノ爲
其ノ事務ヲ取扱フコト能ハズ且試補ラシ
テ裁判所書記ノ事務ヲ取扱ハシムルコト
能ハザル場合ニ於テ手續ノ遲延ヲ來スノ
虞アルトキハ裁判所判事又ハ檢事ヲシテ
裁判所書記ノ立會ナクシテ其ノ職務ヲ行
ハシメ此ノ場合ニ於ケル調書ノ作成其ノ

他裁判所書記ノ事務ハ判事又ハ檢事自身
ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得ルモノトス

(第八條)

(四) 現行制度ニ於テハ開廷ハ區裁判所ニ關ス
ル特例ヲ除キ裁判所ノ廳舎内ニ於テ之ヲ
行フモノト定メタルガ(裁判所構成)最近ニ
於ケル敵襲ノ情況ニ鑑ミ本案ハ之ガ制限
ヲ緩和シ司法大臣必要アリト認ムルトキ
ハ裁判所ヲシテ同大臣ノ定ムル場所ニ於
テ其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得ルコト

トシ控訴院長地方裁判所長亦同大臣ノ委
任ヲ受ケ各其ノ管轄區域内ニ於テ同様ノ
職權ヲ行フコトヲ得ルモノトス(第九條)

(五) 現行制度ニ依レバ裁判所ノ公開シタル法
廷ニ於テハ判事檢事裁判所書記及荷護士
ハ一定ノ制服職服ヲ着用スベキモノナル
ガ(裁判所構成)戰災等ノ事由ニ依リ制度
ノ實行困難ナル事例アルニ鑑ミ本案ニ於
テハ之ヲ緩和シ裁判長事情已ムヲ得ズト
認ムルトキハ此ノ制度ニ依ラザルコトヲ

得ル旨ヲ定メ得ルモノトス(第十條)

(六)裁判所構成法戰時特例ハ昭和十八年勅令
第八十七號ヲ以テ臺灣ニモ施行セラレタ
ルが同地ニ付テハ前記改正諸點ノ中一部
ハ既ニ律令ヲ以テ同趣ノ事項ヲ定メ又ハ
從來ヨリ其ノ制ナキヲ以テ其ノ關係條項
ハ之ヲ同地ニ適用セザルコトトス(第十條)

第三戰時緊急措置法案帝國議會へ提出ノ件
當局大臣ノ説明ニ依レバ現下ノ非常事態ニ
對處シ國政遂行ニ萬潰憾ナキヲ期セシガ爲

ニハ戦力ノ集中發揮ニ必要ナル諸般ノ事項
ニ關シ應機ノ措置ヲ迅速果敢ニ講ズルノ要
切ナルモノアリ然ルニ現行各種ノ法制ハ極
メテ周密複雑ニシテ戰時下行政ノ機動的運
營ヲ期スル上ニ支障ヲ生ズルノ虞アルモノ
尠シトセズ而シテ之ガ具體的必要ノ生セル
都度法令ノ改正ヲ行ヒ然ル後措置ヲ爲スガ
如キハ到底當面ノ需要ニ應ズルコト能ハズ
又新ニ法律ヲ以テ規定スベキ事項ニ關シテ
モ一々法律ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經テ制

定實施スルノ暇ナキ場合亦豫想セラルルニ
到レリ仍テ政府ニ於テハ今回右ノ要請ニ應
ゼンガ爲本法律案ノ御制定ヲ仰ガントシ茲
ニ本件ヲ以テ本院ノ詢議ニ付セラレタルモ
ノナリ

次ニ本法律案ノ内容ヲ述ブレバ左ノ如シ
(一)大東亞戰爭ニ際シ國家ノ危急ヲ克服スル
爲緊急ノ必要ナルトキハ政府ハ他ノ法令
ノ規定ニ拘ラズ(イ)軍需生産ノ維持及增强
(ロ)食糧其ノ他生活必需物資ノ確保(ハ)運輸

通信ノ維持及增强(二)防衛ノ強化及秩序ノ

維持(兩)税制ノ適正化(ハ)戦災ノ善後措置(イ)
其ノ他戦力ノ集中發揮ニ必要ナル事項ニ
シテ勅令ヲ以テ指定スルモノニ關シ應機
ノ措置ヲ講ズル爲必要ナル命令ヲ發シ又
ハ處分ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(條第二)
(二)政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ命令
ニ依リ爲ス處分又ハ同項ノ處分ニ因リ生
ジタル損失ヲ補償スルコトヲ得ルモノト

ス(條第二)
一

(三) 前記第一項ノ命令若ハ之ニ依リ爲ス處分
又ハ同項ノ處分ニ違反シタル者及右ノ各
處分ヲ拒ミ妨ゲ又ハ忌避シタル者等ニ對
スル罰則ヲ定ム(條三)

(四) 第一項ノ規定ニ基ク措置ニシテ重要ナル
モノニ付テハ政府ハ之ヲ戰時緊急措置委
員會ニ報告スベク右委員會ニ關スル規程
ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス(條四)

(五) 本法施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム(條五)

按ズルニ本案ノ三件中第一ノ件ハ現下ノ時局
ニ際シ廣ク適材ヲ官界ニ登用センガ爲衆議院
議員ノ兼ヌルコトヲ得ル官ノ範圍ヲ擴張セン
トスルモノ第二ノ件ハ戰局ノ緊迫ニ即應シ司
法事務ノ機動的運営ニ資セシメンガ爲裁判所
構成法ノ特則ヲ設ケントスルモノニシテ孰レ
モ別ニ支障ノ虞ナキモノト認ム次ニ第三ノ件
ハ現下際會スル國家ノ危急ヲ克服センガ爲政
府ニ對シ一定ノ範圍ニ於テ現行法令ノ規定ニ
抵觸スル命令ヲ發シ及處分ヲ爲スノ權限ヲ賦

與スルコトヲ主眼トスルモノニシテ眞ニ重要
 ナル案件ナリト謂ハザルベカラズ仍テ本官等
 殊ニ緘密審議ヲ盡シタル結果前古未曾有ノ此
 ノ難關ヲ突破スルノ方途トシテ本件ノ措置ヲ
 採ルコト蓋シ已ムヲ得ザルモノト認ムルニ至
 レリ仍テ審査委員會ニ於テハ本案ノ三件ハ孰
 レモ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベキ旨全會一
 致ヲ以テ議決シタリ
 右審査ノ結果ヲ報告ス
 昭和二十年六月八日

審査委員長

樞密院副議長

清水 澄

審査委員

樞密顧問官男爵奈良 武次

樞密顧問官 林 頼三郎

樞密顧問官 竹越與三郎 （關帝ノ武次
談ニ與ラズ）

樞密顧問官 三土 忠造

樞密顧問官 泉二 新熊

樞密顧問官男爵本庄 繁

樞密院議長男爵平沼騏一郎殿